



# 熊野神社

館山市佐野字向一八二六

**祭神** 櫛御氣野命「くしみけぬのみこと」  
**宮司** 藤森益樹



参道と鳥居



狛犬



奥殿

## 由緒

旧神戸村の村社。昭和十六年三月十四日、神饌幣帛料供進社に指定されています。佐野地区のほぼ中央の小高い場所に位置する鎮守で、境内には文化七年(一八一〇)の文字が刻まれた灯籠があります。また、狛犬は楠見の俵石工の作品で、昭和十三年(一九三八)、陸軍近衛歩兵と海軍機関兵(二十歳)として出征する二人の縁者の無事を祈願して奉納したものと言われています。本殿の神社額は神道家で内務大書記官の桜井能監の書とあります。社殿左の石宮は、天保二年(一八三一)に越後から来た行者量海が本願となり、乙浜村の元宮太平らが奉納したものです。奥殿は昔のままの姿が今に残されています。

## 自慢の祭

昭和三十年代中頃以前は、十月九日に例祭が執り行われていました。それ以後に祭礼日が八月十日に変更になりました。当時は安房神社例祭へ出祭していましたが、例祭日を変更してからは佐野地区単独で祭礼を行うようになり現在に至っています。

祭礼の準備は地区の人たちが協力して行われますが、中心になるのは二十代から四十代までの人達で組織される「佐野青年団」です。現在は十八人と少ない団員ですが、団長を中心にまとまった組織になっています。

神輿渡御は午後三時頃から午後九時



「あげー」の掛け声で高く刺す



威勢のよい様子

までの予定となつてはいますが、実際には時間を過ぎててもなかなか終わることはありません。担ぎ棒は二本棒で、前を低くして担ぐのが佐野神輿の特徴です。威勢のいい様子刺しを繰り返しながら広い地区内を回ります。高く刺すときの「あげー」の掛け声は、佐野独特のもので、近年は担ぎ手が不足していますが、手伝いの担ぎ手の方々を迎え、伝統ある佐野熊野神社の祭礼をしっかりと継承しています。



熊野神社へ安房神社の神輿を迎える



熊野神社に掛けられた長提灯

このパンフレットは、地域の方々からの聞き取りを中心に、さまざまな文献・史料からの情報を加えて編集しています。内容等につきましてご指摘やご意見等ございましたら、ぜひご連絡いただき、ご教示賜りたくお願いいたします。